

第28回山陰認知症ケア研究会

認知症高齢者への スピリチュアルケアとは

社会医療法人 栄光会
栄光病院 清田直人

はじめに

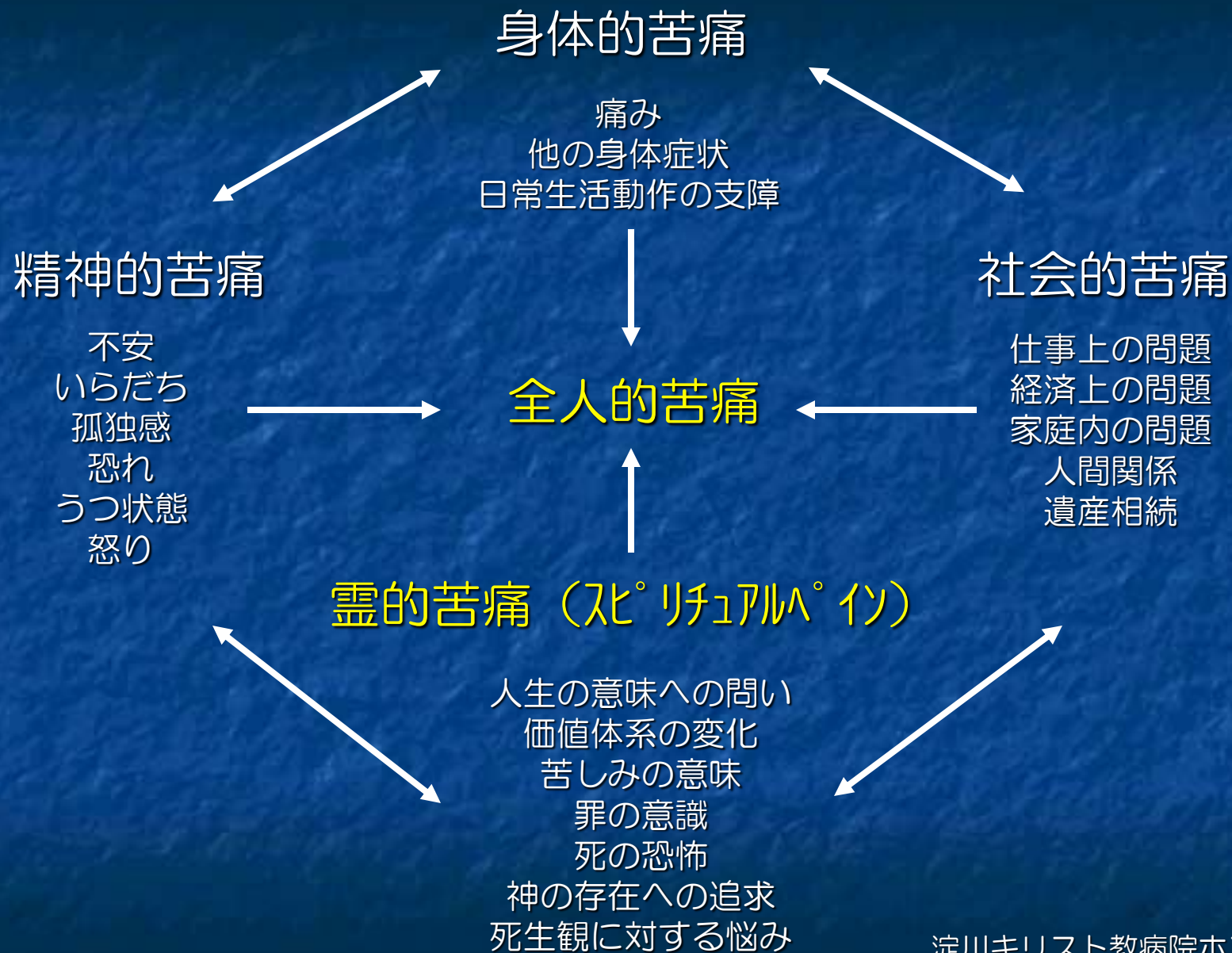
認知症の方に対するスピリチュアルケアとは何か？
当然、認知症の直接的な原因となっている中核症状を改善するためではない。

その中核症状と本人の性格や環境によって起因する
「**周辺症状**」をいたずらに悪化させないということ、
そして何よりも本人とその家族のいのち（存在）を大切にしていくことであるといえる。

ではそのケアの本質、中身とは…？

内容

- スピリチュアルペインとは
- スピリチュアルケアとは
- 援助者に求められる姿勢とは

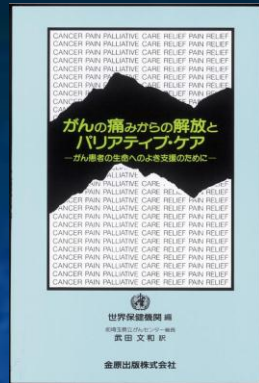


スピリチュアリティとは

スピリチュアルとは 人間として生きることに関連した
経験的一側面であり…「宗教的」と同じ意味ではない

スピリチュアルは身体的・心理的・社会的因子を包含した
人間の「生」の全体像を構成する一因子とみることができ
生きている意味や目的についての関心や懸念と関わっている
ことが多い

特に人生の終末に近づいた人にとっては 自らを許すこと
他の人々との和解や価値の確認などに関連していることが多い



(World Health Organization, Cancer pain relief and palliative care; report of WHO expert committee, 1983)

ケアとは…

一般的に医療とは、

患者の病気を診ていくもの
キュア → 治療

ホスピス緩和ケア（認知症のケア）とは、

病気の患者（利用者）を看ていくもの
ケア → 癒し

しかし本来、医療とは、

病気の患者（利用者）を診て看ていくことを
目指すものでありたい…

必要な治療と癒し

ケアとは…

ホスピス緩和ケアとは、患者さんやご家族からの「訴え」や「要求」の有無に関わらず、日常行われている①エビデンスに基づく医療であり、その上でもたれる医療者と患者という役割を越えた②ナラティブに基づく人と人との関わりだといえる。

そのために私たちは、日夜、プロフェッショナルとしての研鑽を積むことに加え、患者さんに対して「あなたは大切な存在である」ことを感じて欲しいと願う情熱とあるがままを受容していく優しさ、さらに最期まで寄り添い続けていく忍耐力が求められているといえよう。

ケアとは…

利用者や家族に

従うのではなく、

仕えていくことである

英語のセラピー（癒し）の語源は、ギリシャ語のテラペウオーからきている。テラペウオーには**仕える**、**奉仕する**という意味も含まれる。

利用者に従う→利用者の訴えに言いなりであり、援助者のアセスメントや考えが反映されていない関わり。

利用者に仕える→利用者の訴えの本質に目を留め、その目的を明らかにした上で、援助者の考えや積極的な介入なども求められていく関わり。

シシリー・ソンドース（1918年～2005年） ホスピス運動の創始者

『あなたがほかならぬあなたからこそ、大切なのです。

生命の瞬間まで価値があるあなたなのですから。

私たちは、あなたが安らかに死ぬのをお手伝いするだけでなく、死ぬまであなたらしく生きるためにできるだけ力になりたいのです。』

自分らしく生きるとは…？

自分らしさとは自分に価値を見出せること。

しかし人は、日々、死にむかって不可逆的な状態に陥っていく自分自身に対し、どのようにして価値を見出していけるというのか…

自分自身に価値を見出すために、何か「らしさ」を探し続けていったとしても、死を前には何もかもが失われてしまう。

自分らしく生きるとは…？

結局のところ、「自分らしさ」というものを何かを所有することやできることによって見出している間は、その「何か」が失われていくたびに「自分らしさ」も失うので、自分に価値を見出すことができなくなり、生きることが苦しくなるのである。

したがって「自分らしさ」は、自分自身の「何か」によってではなく、自分自身そのものに見出さなければならない。

スピリチュアルペインとは

定義：自己の存在と意味の消滅から
生じる苦痛（無意味、無価値、空虚 など）

Murata H, Morita T, the Japanese Task Force. Conceptualization of psycho-existential suffering by the Japanese Task Force: The first step of a nationwide project. *Palliat Support Care*(2006), 4, 279-285

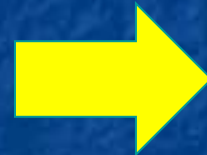
スピリチュアルペインとは

- なぜ私がこんな目に
- 生きている意味がない
- 何の役にも立たない
- 私の人生とはいったい何だったのか
- 早く死にたい
- 迷惑をかけて申し訳ない
- 誰も分かってくれない
- 不公平だ
- 死んだらどうなるの
- バチが当たった

など



自分らしくない



自己解放できてない

スピリチュアルペインとは、

自分らしくない自分を

生きていかねばならない苦悩

スピリチュアルペインが表出される仕組み

人は、危機に直面したとき、その現状の自分を様々な立場（他者、超越者、自然、過去の経験や価値観など）から、比較、吟味していこうとする。

それによって今まで何が「自分らしさ」を形成していたのかを確認したり、また自分が自分として生きていくためには、自分らしいと思える何かが必要であったことに気付かされていくのである。

自分らしさの喪失

→ 現状の自分を受容できない

→ その自分を生きるのが辛い

スピリチュアルペインが表出される仕組み

1 「なぜ私がこんな目に」などと訴えるとき

「人間は原因と結果との合目的的な関係を知ろうとする欲求を満たすことを望む。人間は、なぜということ、そして、何のためにということを知りたいと思う。そのことはちょうど、人間が自分自身や他者の行動に目的をもたせたがるのと同じである」

「あらゆる反省的で健全な人間において、因果律を満たそうという単純な要求が形而上学的なあこがれや宗教に発展する」

（渡辺学 『ユングにおける心と体験世界』 春秋社 1991年）

スピリチュアルペインが表出される仕組み

2 「生きる意味（価値）がない」などと訴えるとき

利用者は「病」や「寝たきりの生活」そのものを苦悩しているのではない。病を患ったり、寝たきりの生活を強いられている**自分自身のあり方に苦悩**しているのである。

すなわち危機的状况によって、今まで自覚的あるいは無自覚のうちに保たれていた、現状の自分と「こうありたい自分」あるいは「こうあるべき自分」との均衡が崩れた結果、**現状の自分自身**に存在意義や価値を見出せなくなり、そのような自分に嫌悪し苦悩する。また認知症の場合、そうした苦悩を言語化することも難しくなり、周辺症状の悪化という形で表出されていくこともある。

キェルケゴール（1813～1855）

デンマークの哲学者



「人間は精神（スピリチュアル）である。

しかし、精神とは何であるか？

精神とは自己である。しかし、自己とは何であるか？

自己とは、ひとつの関係、その関係それ自身に関係する関係である。

あるいはその関係において、その関係がそれ自身に関係するということ、そのことである。

自己とは関係そのものではなくして、関係がそれ自身に関係するということなのである」

（「死にいたる病」より）

スピリチュアルペインが表出される仕組み

危機



①比較

- これは本当の私じゃない！
- こんなはずじゃなかった！



②模索

- じゃあ本当の私とは？
- 生きる意味とは？



③要求

やりたい事
やりたかった事
やらねばならぬ事



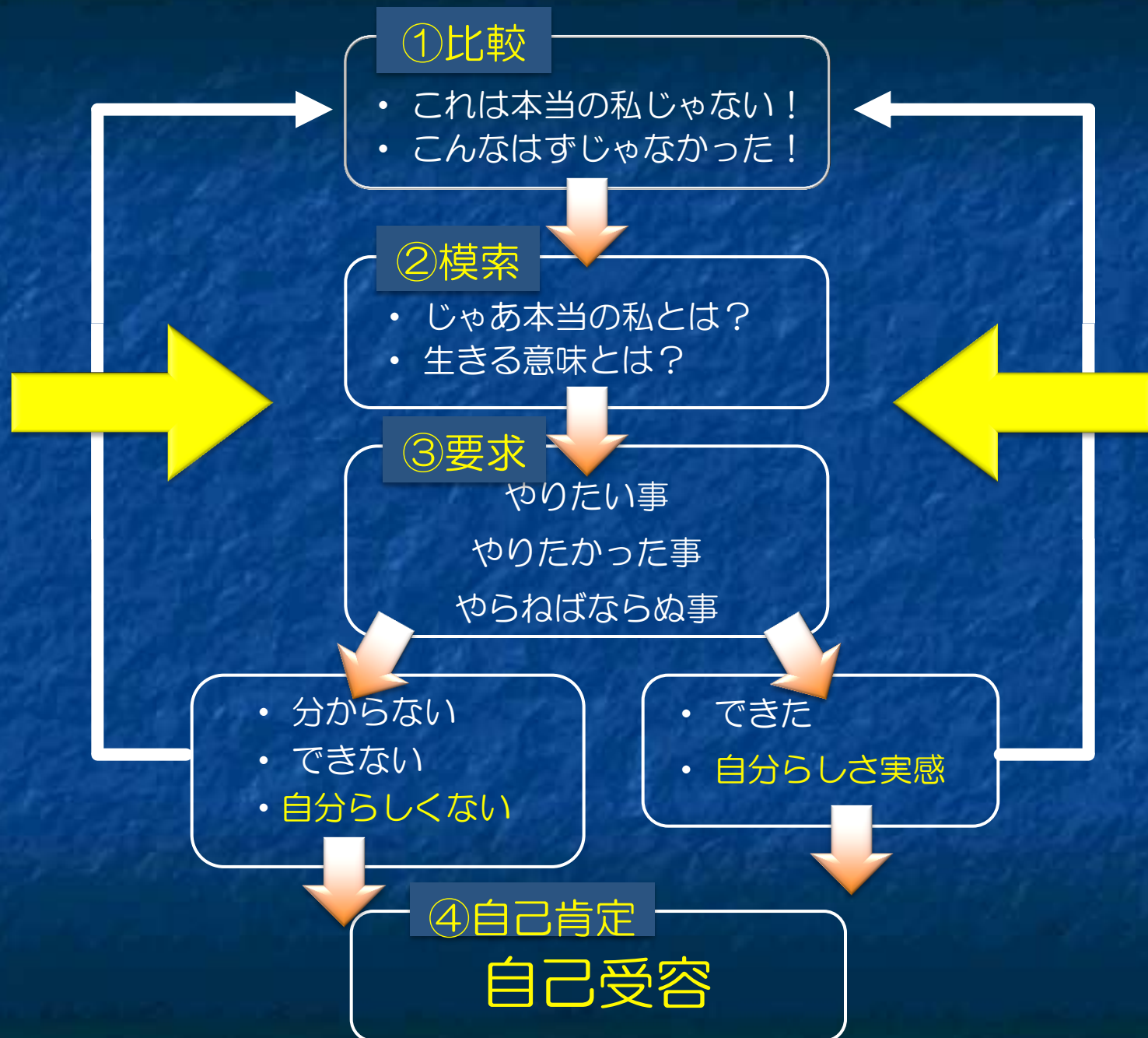
危機

※やりたい事、やりたかった事、やらねばならぬ事とは…

元気になりたい、仕事をしたい、人の役に立ちたい、人に迷惑をかけたくない
許されたい（赦されたい）、和解したい、死後の世界（天国など）で生きたい
死にたい（心が楽になりたい）…スピリチュアルペインとして表出される

スピリチュアルケア

スピリチュアルケア



利用者は、たとえば自分の「要求」が見出せず、あるいは見出しても満たされず「自分らしさ」を実感できなかったとしても、家族や医療者との関わり（レスポンス）を通して、「私は大切にされる（愛される）価値ある存在」（他者承認）であることを実感することができれば、その経験から自己を肯定していくことができ、その結果、自己受容へと促されていくのである。

従ってスピリチュアルケアは、利用者の「要求」に「答え」ていくことだけでなく「要求」する患者に「応え」ていくことにも目を留め、関わり（関係性）そのものを重視していくケアだといえよう。

スピリチュアルケアとは

「『生きがいを持ちやすい人生観』への転換を推奨し、人生のあらゆる事象に価値を見出すよう導くことにより、人間のスピリチュアルな要素（心あるいは魂）の健全性を守ること」

（飯田史彦『生きがいの創造Ⅲ 世界標準の科学的スピリチュアル・ケアを目指して』2007）

「スピリチュアルケアは安易な励ましを避け、現実に関わっている人と一緒に種々の問いとぶつかり、病む人と共に居ようとし、その困難な状況を共有しようとする努力である」

（ウォルデマール・キッペス『スピリチュアルケア』1999）

スピリチュアルケアとは

「…スピリチュアルペインに対して援助者が回答を伝えるのではなく、患者自身が援助者と共に回答を探し出すことに主眼を置く。ケアする人は、患者と一緒に悩み苦しみつつ、患者が納得する答えを見つけ出す援助をするのである」

（窪寺俊之 聖学院大学教授）

「…ケアとは相手が成長することを援助することであり、…スピリチュアルケアにおいて、医療者と患者、あるいは医療者と家族は、お互いの人生が触れ合うことを体験し、互いに人間として成長するのである。医療者は患者と家族が自己実現することを援助するとともに、極限状態の人間の姿や真実の問いと出遭って医療者自身も成長するのである」

（沼野尚美 チャプレン）

スピリチュアルケアとは、

あるがままの自分を受容していく
（現状をあるがままに生きる）ことを
目指す、他者承認を土台とした「関わり」
のこと

患者を愛するということ…

新約聖書に出てくる「アガペー（ $\alpha \gamma \alpha \pi \eta$ ）」は、現在「愛する」と訳されているが、明治時代までは「御大切（ごたいせつ）」と訳されていた。

元来「アガペー」は、ラテン語で「カリタス」と訳される単語であり「カリタス」は英語で「チャリティ」と訳される単語である。

したがって患者を愛するとは、「好き」にならないといけないということではなく、好き嫌いに関係なく「大切する」「思いやる」ということである。

練られた品性＝熟練したもの

患難が

忍耐を

生み出し

忍耐が

練られた

品性を

生み出し

練られた

品性が

希望を

生み出す

ローマ人への手紙

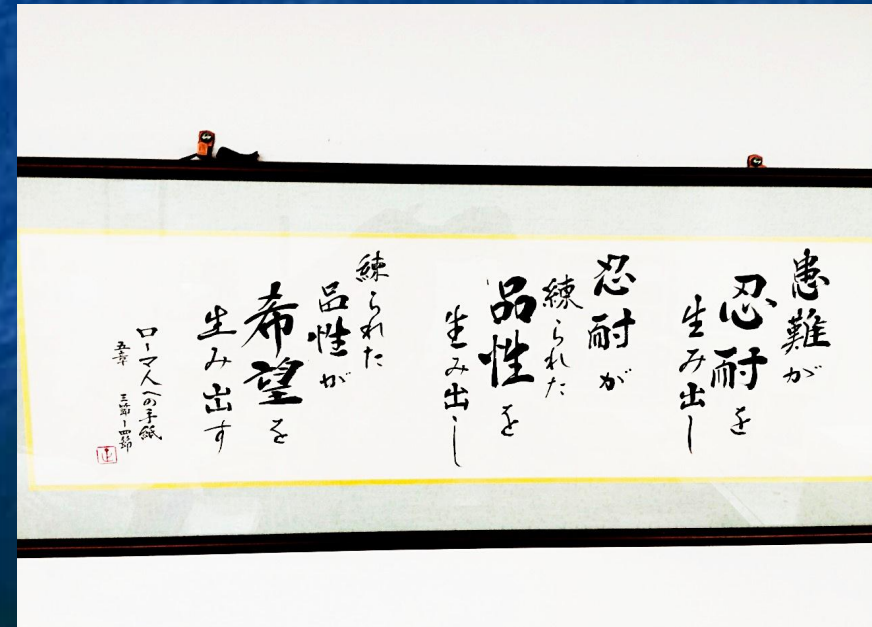
五章

三節一四節



ケアのこころ

- ケアの熟練工をめざす。
- 困難事例だと思われる患者さん利用者さんやご家族との関わりこそが、医療者を熟練工へと成長させる大切な機会。



援助者に求められる姿勢

燃え尽きてもいけないし、
冷めててもいけない。



燃え尽きない程度にいつまでも燃え続けていく、
炭火のような「**こころ**」でありたい。